平成20年度全国和牛登録協会認定和牛改良組合長研修会を開催！

今後の更なる和牛改良組合活動に期待！

全国和牛登録協会では、昭和47年から、一定の要件を満たす地域の和牛生産部会や和牛振興会を認定和牛改良組合と位置付けしながら、和牛の改良増殖を推進するための組織強化に努めて参りました。

そのような中で、去る平成21年２月13日（『福之国』の誕生日）ホテルプラザ宮崎において平成20年度全国和牛登録協会認定和牛改良組合長研修会を開催いたしました。研修会には、県内43の和牛改良組合の代表者が出席されました。県、関係団体の出席者も合わせて約80名の出席を頂き、和牛改良の歴史を振り返りながら盛会に開催することができました。翌日14日は、ＪＡ宮崎中央家畜市場にて子牛セリ市を視察いたしました。

13日の研修会では、社団法人全国和牛登録協会情報解析課の穴田勝人課長より『和牛登録事業60年のあゆみと和牛改良について』と題してご講演を賜りました。

永き60年を振り返って、昭和23年に発行された機関誌『和牛』の創刊号の中から、『今日の和牛改良の羅針盤とも申すべき登録事業が・・・』という言葉が最初に紹介されました。この言葉から、全国和牛登録協会初代会長である羽部義孝氏の当時の和牛登録事業にかける期待と和牛改良への熱い想いが感じられました。

和牛が役用牛から役肉用牛、役肉用牛から肉用牛へと変貌を遂げ、今日に至る和牛改良のあゆみや和牛のオリンピックとも評される全国和牛能力共進会開催の目的、開催テーマ、出品牛の解説等、順を追ってご説明頂きました。

時代に求められる和牛の様々な能力を次代に伝えていくため、登録事業を通じて種牛の産肉能力や種牛能力の育種価評価や体型審査等、幾つもの指標を基に、確実に選抜と淘汰を繰り返し、和牛集団を構築していくことがいかに重要なことであるか再確認して頂けたと思います。

講演の終わりに、時代に応じた和牛改良を行う上で和牛改良組合の果たす役割は大きく、各和牛改良

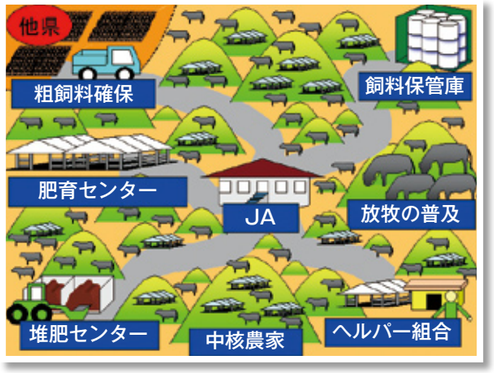
組合が様々な研修会活動等を行いながら地域に根ざした和牛の改良や増頭活動にご尽力されていることに深い感謝の意を表されました。

講演に続き、県内の２つの地域から活動発表をして頂きました。

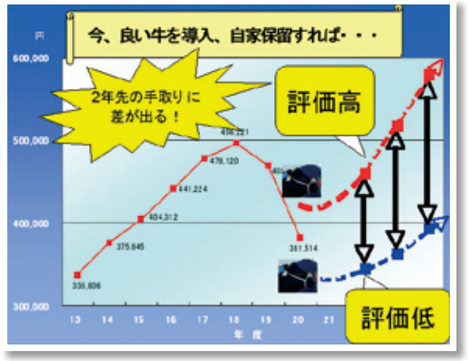
最初に、ＪＡ高千穂地区畜産部の佐藤年光氏から『西臼杵郡の現状と今後の取組みについて』発表がありました。

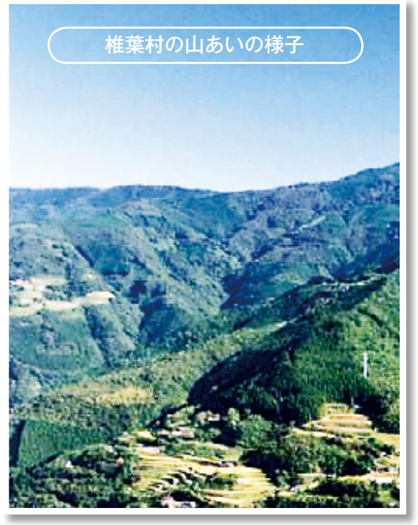
発表の内容についても仲間と想いを巡らし、JA高千穂地区の地の利を存分に活かした事業推進や地域内一貫和牛生産システムが構築されてきたこれまでの活動の様子についてスライドを用いて分かり易く紹介して頂きました。

先輩や同僚との意見交換を積極的に行い、地域を支える仲間とともに『和牛の里づくり』に邁進する姿は参加者に深い感銘を与えたことと思います。



続いて、椎葉村役場農林振興課の那須健司氏から『椎葉村の和牛増頭の取組みについて』発表がありました。椎葉村の山間地という険しい生産環境も、農家、ＪＡ、授精師、獣医師、ＮＯＳＡＩ職員、役場職員、畜連職員等、牛に携わる方々がともに手を取り合い、牛歩等の導入等新たな技術や各種事業の導入に取り組むことによって、力強く克服し、繁殖牛の増頭、分娩間隔の短縮、後継者育成等、大きな成果を残しながら次代に突き進む姿を紹介して頂き、出席者に大きな勇気と希望を与える発表であったと思います。





最後に、宮崎県支部の小西啓介技師が、平成19年度より取り組んでいる高等登録奨励事業を推進する中で遭遇した事柄や子牛価格の動向等を発表し、今いかに優良牛を選抜し保留していくことが重要なことであるかについて出席者各位に問いかけを行いました。

夜の懇親会では、消費者の目線に立った和牛改良を行うことの大切さを伝える試みとして、食する牛肉の登記証明書のコピーを配り、『血統構成』と『肉のうまみ』の関連等について意識を持ちながら『宮崎牛』を食して頂きました。

『牛づくり』は『人づくり』と言われますが、本日の研修会を契機に、地域の和牛生産活動や研修会等を通して、これまでにも増して確実に優良牛が保留され、愛牛を通じた仲間づくりとともに和牛の生産力が日々伸びていくことを祈念するものです。